

第 57 号
編集・発行
信州大学附属図書館
繊維学部図書館
平成 19 年 4 月 11 日

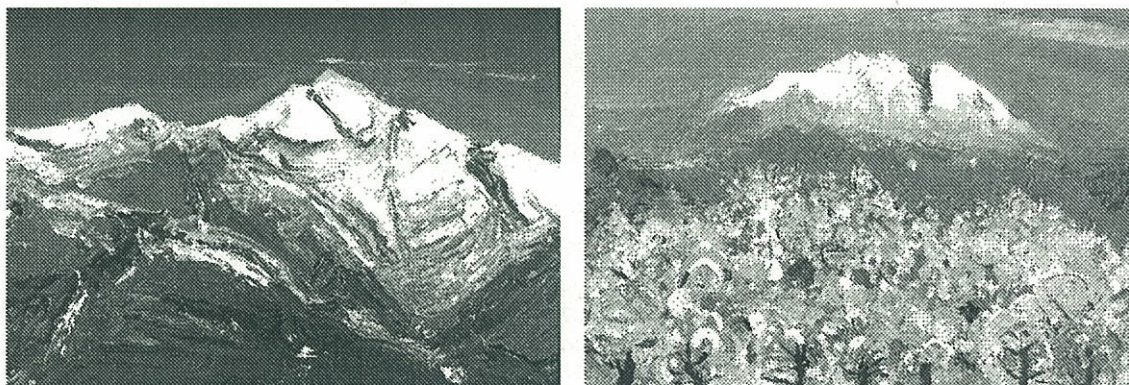
CONTENTS

景観と感性	横井 紘一	(2)
学生用図書を紹介		(4)
図書館通信	告知板	(6)
	図書館日誌	(7)
編集後記		(7)

Library(電子版)はインターネットで提供しています。
URLは <http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/seni/online.html> です。

景観と感性

横井 紘一



(左) 春を待つ四阿山 (右) 杏の里 森

— 四阿山、長野県と群馬県を境にする 2,354 メートルの山。研究室から毎日眺めているのに、その名を知らなかった。深田久弥が百名山に選んで有名になった。深田は百名山を選定する基準として「山の品格、山の歴史、個性」と書いている。山の品格とは何か、第一は形と色の美しさであろう。視覚から得られる山の姿、形の美しさが清浄感を感じ、次に山から受ける安心感や荘厳さ、雄大さが品格と繋がると考えられる。山には心動かされるものとそうでないものがあるのだ。(2005年3月) —

これは私が毎月発信している、絵と文章のブログ「信州絵便」の一節である。まだ雪の残る四阿山の絵と共に「山の品格」というタイトルで送信した。いろいろな人から反応があるのが楽しい。“いいところで暮らしているのですね”というのが概して多い。

風景から人は何を感じるか、人は風景から得られたものに触媒され、どのような行動を起こすのか。風景は価値があるのか。というような疑問を解明するため「景観と感性」について研究を続けている。感性とは人や人工物、自然の対象物から受ける感受情報と感受したものから行動を起こす発信情報とで構成されている。単に感受性だけではない対象物との関係性形成能力である。芸術やデザインなどの発信行為を感性と呼ぶのは狭義の感性である。感性は対象物と対話し、発信し、お互いが認め合う関係を作る行為である。

次のブログは千曲市の杏の里 森の絵に、「原風景」というタイトル。

— 「帰省セール」お盆休みに、故郷に帰るお土産品の販売をテーマにした新聞広告を作ることになった。郷愁をイメージしたイラストを描くため資料用の写真を探した。山や田んぼや花などがきれいな農村を見つけたので、参考にしながらイラストを描いた。農村の原風景であり、桃源郷のようであった。それから40年、杏の花が咲くころ訪れた信州の村は昔、描いたイラストとそっくりだった。“あれは杏の里 森だったのだ”しかし、村は花見客があふれ、呼び込みの音がうるさく、花をめぐる雰囲気ではなくなっていた。私の心に残る美しい原風景はさびしい風景に変わっていた。変わらないのは花の色と彼方に浮かぶ銀嶺だった。(2005年4月) —

私の育った古都奈良も、ここ信州上田も、郊外に行くと同じ顔である。大型店舗が我先にと、けばけばしい色と異様な形で道路を覆っている。町のアイデンティティはどこにあったのか。私が景観に興味を持ち始めたのは、自分の住む町を美しくしたい、オリジナリティのある町でありたいと思ったからである。東京の西新宿ビル群と奈良公園と上田の太郎山の想起値（仮に西新宿のビル群や景観対象物が無くなったと仮定した場合を想定した、心の痛みの対価）比較をしてみると西新宿ビル群 525 億円、奈良公園 6,444 億円、太郎山 251 億円という結果が出た。歴史的遺産から得る物が大きいとする奈良の住民に対して信州人は山から何も得ていないのだろうか、信州人は自然が存在することを当たり前のように思っているのではないかと感じた。

「農業景観と感性」というブログでは

一古都奈良から東京、そして信州に来て5年目、奈良の歴史的景観に続き、最近信州の農村景観に注目している。先日上田市の郊外、岡の里山を守る会の人たちに出会った。高齢者が子供たちに田植えを教えビオトープ活動を行っている。遠く烏帽子岳や浅間山の噴煙が眺められる里山、りんごの果樹園や田畑は健在だ。一見信州の豊かな農村だが、問題点も内在している。放棄地が散見し、田や畑に働く人の姿が無い。“いつ田に出るのですか？” 答えは芳しくなかった。JAの大型トラクターが順番に鋤をし、田植えをし、刈り取る・・・農業はアウトソーシングなのだ。農村景観の荒廃は田畑に作物が無いこと、耕作こそ農村景観の再生に繋がる。休耕田にれんげを咲かせて美しい村づくりとするのは避けたい。（2005年5月）一

奈良では「あなたの町の景観診断」と称して景観調査をした。大和の農村では「人工的な白い空間」を好み、農業公園を作り、擬似農業を地域のこどもたちに体験させ、沿道を農作物ではなく、花を植える運動を展開していた。農村を忘れ、農村が破壊された光景が随所に見られた。上田の農村でも同じ、専業農家が5%を切る、誰が後継者なのか、誰がリンゴの樹の剪定ができるのか、勤め人の息子世代では無理、孫の世代が受け継ぐことができるのか、掛け声だけの“美しい日本”ではなく、農業産業の経済的再生こそ、景観再生にとっても望まれるのである。



初夏の岡からの遠望

学生用図書を紹介

武居総子（図書購入担当）

新年度がスタートしました。今年度もたくさんの学生さん、先生方に図書館をご利用いただけるように職員一同頑張っていきたいと思っています。

学生用図書は、各学科の先生方が学生さんのために推薦して下さるものです。今回は、図書購入担当者が3冊を選んで紹介させていただきます。その他にも各学科の専門的な図書はもちろんのこと、読み物としては「源氏物語 / 瀬戸内寂聴訳」、昨年映画で話題になった「ダ・ヴィンチ・コード」なども購入しました。本との素敵な出会いがありますように。



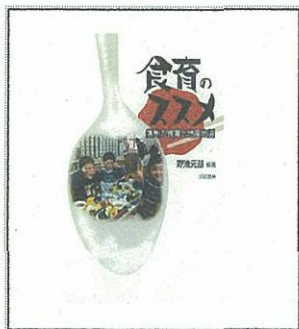
「においの地図 Animals' Eyes 動物の目で環境を見る (5)」

宮崎学 / 偕成社 / 2002年

請求記号 : 480:Mi 88

著者は動物の写真を撮るカメラマン。人間が捨てた残飯をむさぼる動物、人間のゴミが混ざった動物のフン、使用済みの紙オムツにとまったハエ、都会のネオンのかげで活動するネズミなど、写真がリアルで生々しく、見てはいけないものをみてしまったような気持ちになりました。動物は人間の感覚では気がつかないようなものを、においをとおして見ることができるのです。そしてそれぞれの食糧にたどりつきます。

この本は「Animals' Eyes 動物の目で環境を見る」シリーズの第5巻。大量のゴミをだしている張本人である人間。それに気づかないで（見ないふりをして？）ゴミの横を通り過ぎていく人間。そんな現実を動物の視点から見せられてドキッとした一冊でした。



「食育のススメ-信州の食育と地産地消」

野池元基 / 川辺書林 / 2006年

請求記号 : 374.97:Sh 96

現在、子育て真っ最中の私にとって「食」はとても気になるテーマのひとつです。この本が魅力的なのは、まず巻頭に料理のレシピが載っていることです。地域の食材を使った料理、そしてアレルギー除去食、どれも工夫が凝らされていて美味しそう！！

「食育」とは最近よく聞かれるようになりましたが、「そもそも生きるために必要不可欠な「食べる」という行為を、法律で国が定めなくてはならない崩食の時代に突入してしまった」という背景があります。ファーストフードが溢れ、生産者の顔が見えなくなり、家庭では朝食抜きの子供が増えている…。そんな中で食育にとりくむ人たちがたくさんいます。

この本では、家庭・学校・地域での食育活動の実践例がたくさん紹介されています。「食」について大人が考えることが子どもたちの食育につながり「生きる力」になる、という言葉はとても印象的でした。食事を作る人、作物を作る人、そして作物の自然の営みがあったからこそ美味しくいただける、そんな「食のつながり」について考えさせられる一冊です。



「色の秘密—最新色彩学入門—」

野村順一 / 文芸春秋 / 2005年

請求記号：757.3:N 95

人間は目で色を見て、また皮膚でも色を見て（感じて）いるといいます。その証拠にインテリアや身の回りの色によって、リラックスしたりストレスを感じたり、温かくもしくは寒く感じたりすることがあるのです。ピンク色を身に着けることで身体が若返り、逆に黒を身につけていると、しわが増えるという実験結果は興味深いです。白い下着は風邪を治す作用もあるそうです。信じられないような話ですが、肌が色を感じている証拠です。著者は「光の本質である色彩」が人体に及ぼす影響を、太陽光によるものと合わせて解説しているため、とても分かりやすいです。

もう一つ驚いたことは「味は視覚で決まる」ということです。生のジャガイモを、目を閉じて鼻をつまんで食べると、リンゴと区別ができなくなるという実験結果があります。人間の五感で、視覚は87%も作用する一方で、味覚はわずか1%しか働いていない、従って、食べ物の味、食欲に関しても色がとても重要になっているといいます。

色によりメッセージを伝えるのがカラーコミュニケーションです。身につける洋服の色で重要な仕事がうまくいったり、人間関係も円滑になる作用があるのですから、これは軽視できません。

「色には不思議な力がある」そのとおりだと思いました。「色の秘密」を知ることで私たちの生活に彩りが添えられることに違いありません。

告知板

◎ 新2年生のための図書館オリエンテーション

図書館の使い方を知っておくと、今後の学習におおいに役立つと思います。下記の期間随時受け付けていますので、ご参加ください。

4月16日(月) ~ 4月20(金)

◎ 研究室所属学生のための図書館オリエンテーション

教育・研究に図書館をより活用していただくために計画いたしました。参加を希望される場合は、研究室毎にお申込みください。

4月23日(月) ~ 5月11日(金)

⇒ 平成19年度 係員職務分担

平成19年度における係員の職務分担は次のとおりです。

担当者	内線	職務分担
主査 内海 広	5313	繊維学部図書館事務総括
伊藤葉子	5015	雑誌(購入)／目録(雑誌)
武居総子	5016	図書購入／目録(図書)／資産管理
山極滋子	5016	文献複写／現物貸借
土屋孝子	5015	会計業務担当

* 図書館の利用案内、資料の所蔵確認、各種データベースの検索方法などについては、係員全員が担当しますので、お気軽にお尋ねください。

* 繊維学部図書館のためにご尽力いただきました清水係員が退職されました。また、4月からは新たに2名のスタッフを迎え、より一層のサービス向上に努めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

1/23	全学図書関係主査会議(第2回) [附属図書館会議室]	出席者－内海主査
3/2	図書館職員研修会 [附属図書館会議室]	出席者－伊藤係員 武居係員
3/16	附属図書館館長会議(メール審議)	出席者－高須館長
3/26	全学図書関係主査会議(第3回) [附属図書館会議室]	出席者－内海主査

編集後記

このところ真冬並みの寒さになったり、暖かくなったり、気温の変化が激しいです。桜も「？」と戸惑ったことと思いますが、事務管理棟の前の桜が咲き始めました。
青い空に薄紅色の花は綺麗です。

今回は感性工学科の横井先生からご寄稿頂きました。ブログ「信州絵便」は、特に四季折々の山の表情と軽妙洒落な文章がとても印象的です。ご覧いただくと楽しさが2倍になること請け合いです。お忙しい中ありがとうございました。
なお、残念なことに「信州絵便」は2007年3月で最終号となりました。

利用者の皆様の声もLibraryに掲載したいと思いますので、ご意見・書評など何でもお寄せください。係員に直接、またはE-mailでのご寄稿もお待ちしております。
E-mail アドレスは以下のとおりです。

jfg0100@shinshu-u.ac.jp